

一次元圧密沈下外の沈下の存在を知る一試案

大 原 資 生

粘土層の地盤沈下に於て圧密理論外の原因による沈下が暫々含まれる事がある。此を実測せる時間-沈下曲線より、圧密傳導度を逆算すると云う方法で求められる様である。一試案として述べて見る。

関門口道隧道海底部断層破碎帯の施工に就て

○関門国道工事々務所 松 尾 孝 一
合 桑 田 博 文

§ 1. 概 要

現在関門国道隧道に於て下関堅坑より内司堅坑区間 780 米の海底部工事を実施して居るが之の区間には本隧道中最難関部たる石英肉緑岩脈の相当量の湧水を伴ふ断層破碎帯延長 134.5 米（位置下関堅坑より 170 米~304.5 米）を含み之が施工には尤も苦心して居る。(図-1)。以下に於て之の最難関部の施工方針、工程、注入及掘鑿、一次覆工等につき述べることをする。

§ 2. 施工方針

a) 鑿地逆巻式。 b) 最初セメント注入を十二分に行ひ素掘工法に依り掘鑿する。支保材には鉄製支保を使用する。 c) 覆工厚は丸型部 65 釐以下 60 釐とする。 d) 注入 25 米掘鑿 20 米を原則とする。(図-2 及 図-3)

§ 3. 注入及掘鑿覆工工程について (図-4)

断層破碎帯丸形部完了は 29 年 1 月と成る。

§ 4. 注入方式

i). 注入方針

a) 注入圧力最高 20 kg/cm^2 b) 注入混合比は 1:8 程度 c) 高粘セメント使用 d) 注入有効範囲は 2 米径の円域とする。 e) 葉液注入。 f) 穿孔機械